

キク白さび病の防除対策について

キク白さび病は葉に白い病斑を形成することによって品質低下を引き起こす冬春期の重要病害です。昨年は 12 月から発生がみられ 3 ~ 4 月には輪ギクを中心に多く発生しました。本病は感染した苗によって圃場に持ち込まれ、胞子の飛散によって伝染拡大します。本病を防除するには、健全苗を確保するため採苗圃からの防除が重要です。貴管下における防除対策のご指導をよろしくお願いします。

1. 発生状況

- (1) 例年 3 ~ 4 月に発生が多いが、昨年は県外、国外からの購入苗を定植した一部の圃場で 12 月から発生がみられた。
- (2) 輪ギクを中心に一部小ギク、スプレーギクでも発生した。
- (3) 昨年発生の確認された地域は、本島中部、北部、久米島、伊江島である。

2. 白さび病および菌の発生生態

- (1) 発病適温はおおよそ 15 ~ 23 で、これは本県では 11 ~ 5 月がこの時期にあたる。
- (2) 降雨または高湿度で結露が数時間以上続くと発病しやすい。
- (3) 胞子(小生子)は乾燥に弱く湿度 87%以下で死滅し、また 26.5 以上の高温では活動を停止する。

3. 防除対策上注意すべき事項

- (1) 購入苗
 - a 県外や国外から苗を購入する際は、健全苗を購入する。感染苗は外観から健全苗と区別がつかないので購入元に発生および防除状況を確認する。
 - b 購入苗は親株として用い、健全株と確認されたものから採苗するのが望ましい。
- (2) 採苗圃
 - a 親株に利用しない株は耕耘するなど圃場に残さないよう片付ける。
 - b 前作で白さび病が発生した圃場を採苗圃とする場合は、株が感染していることもあるので治療効果の高い薬剤を定期的に散布する。
- (3) 本畑
 - a 前年発病の見られた採苗圃からはなるべく採苗しない。
 - b 苗を購入する場合は健全苗を購入する。
 - c 多湿条件下で発生するので不要な下葉、脇芽は除去し、通風をよくする。
 - d ビニールハウスなどの施設では、湿気がこもらないように換気を良くする。
 - e 発病葉は除去し、ビニール袋に入れるなどして圃場外へ持ち出し焼却などの処分を行う。
 - f 発生時期には予防散布を行うとともに、葉をよく観察し初期発生を見逃さない。
 - g 防除効果を高めるため、薬剤耐性菌が発現しないようローテーション散布を行う。
 - h 栽培終了後は近隣圃場や次作の発生源にならないよう、不必要な株は速やかに処分する。